

# Better Care

96  
2022  
Summer  
夏

特集

## 死とその悲しみ

日本人は死後の世界とどう、つきあってきたか

神崎宣武 [民俗学者]

インタビュー：中澤まゆみ [フンフィクションライター]

元気なころに決めていた死の迎えかたとは  
違う選択肢もあり得る

若井克子 / 若井真也 [東大教授、若天性アルツハイマーになる]

生きづらさを支え、亡くなった後もつながりを保つ  
まるごとケアの家 ココロまち診療所 [神奈川県藤沢市]

多様なそれぞれのグリーフを安心して語れる場  
グリーフサポートせたがや [東京都世田谷区]

新連載

妻を看取る — 在宅介護16年3か月の軌跡

本村昌文 [岡山大学学術研究院教授]

## 百人百色の介護

習志野市 [千葉県]

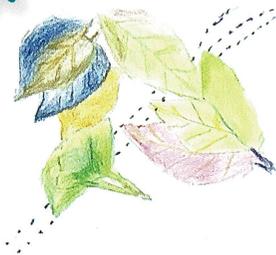
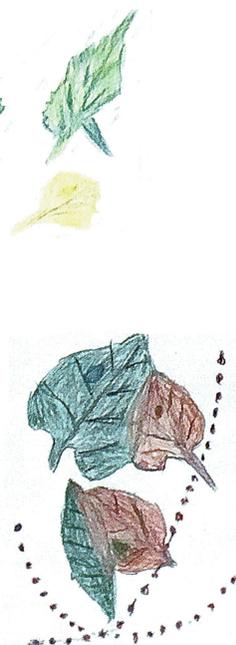
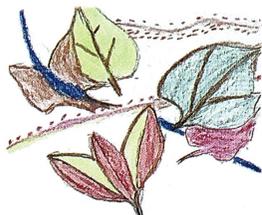
相模原市 [神奈川県]

下関市 [山口県]

◆ロードサイン 訪問介護の危機

安岡厚子 [NPO 法人年輪理事長]

小島美里 [NPO 法人暮らしネット・えん代表理事]





## 「旅はリハビリ！」この言葉が持つ意味と大切さをかみしめた認知症の方とのお旅行のエピソード



トラベルヘルパーは、認知症のお客様に同行する機会が時々あり、その際、お客様の昔の記憶が突然甦る瞬間に出会うことがあります。今回は、大味恵子トラベルヘルパーからのご紹介です。

### ☀️ 外出すると、記憶が活性化する!?

都内の施設で暮らすY様は、画家だったお父様の秘書をしておられました。コロナ禍前は、年に数回、絵画展にも足を運ばれていたのですが、帰り道には決まってバッグの中を探し始め、「あら、鍵がないわ!

私、ドアに差したままにしてきちゃったみたい」と仰っていました。もちろん施設の部屋に鍵などはかけてはいません。いつも同行される後見人さんの話では、「外出をすると、Yさんの脳が刺激を受けて活性化されて、昔に戻るんですよ。いいことだと思います」とのことでした。

K様は、ご主人が亡くなられてから都内の施設に移りました。コロナ禍で延びていた納骨を半年遅れで執り行うことになり、私はお墓のある関西へ同行させていただきました。K様にとっては、半年以上



ぶりの外出で、タクシーや新幹線の車窓から「外の世界はいいわねえ」と何度も繰り返されたことが忘れられません。

その2か月後、K様は

神戸港の見える高層の施設に転居されることとなりました。きっとお部屋からの眺望に心癒される日々を送られているのではないかと思います。

### ☀️ 満開の桜の風景が心を動かした!?

今年3月、北九州の施設からご子息の住まいがある関東の施設へ転居されるS様のお手伝いさせていただきました。S様は2年ほど前に大手術をされ、リハビリ病院を経て施設で暮らしていたのですが、ご子息が面会に行っても誰なのか認識もできず、話もかみ合いませんでした。この日、約2年ぶりの外出だったS様はとても気分が良さそうでした。空港での待ち時間には、堰を切ったようにお話をされ、「今日は僕のことかわかったみたいで、話もかみ合いました」と嬉しそうに仰ったご子息。折しも満開の桜の季節、S様の新しい生活を祝福しているかのようでした。

3人のお客様の例を挙げましたが、「旅」とまでは行かなくとも、「外出する」ことがいかに私たちの内部を活性化するものであるかを示していたと思います。

「旅はリハビリ!」何度も聞いている言葉ですが、改めてこの言葉の持つ意味の深さ、大切さをかみしめたいと思います。

あ・える倶楽部のお客様のためにも、安心して気軽に外出のできる日が少しでも早く戻ってきますように!

〈あ・える倶楽部トラベルヘルパー 大味恵子〉

介護旅行の1,300件の事例を紹介しています  
【トラベルヘルパーマガジン】 <https://travelhelper-magazine.jp/>



株式会社 SPI あ・える倶楽部 URL <http://www.aelclub.com>

〒156-0051 東京都世田谷区宮坂 3-24-11-1F  
電話 03-6415-6480 / FAX 03-6415-6488 / E-Mail [tabi@aelclub.com](mailto:tabi@aelclub.com)

※トラベルヘルパー（外出支援専門員）®は株式会社 SPI の登録商標です。